

岐阜県 商店街だより

第391号 2017.3.23 3月号



発行元

岐阜県商店街振興組合連合会

岐阜市藪田南5-14-53

TEL058-277-1107

高山本町三丁目商店街振興組合 まちなかインバウンド促進！ 免税カウンターと屋台村！

高山本町三丁目商店街振興組合では、免税カウンターと平成27年度補正商店街・まちなかインバウンド促進支援事業を行っています。

免税カウンターは、約1年前の平成28年1月27日に、商店街単独の店舗としては全国初の設置に成功しました。全国初だったため、開設段取りの半年間は商店街ブログを更新できないほど苦労しましたが、商店街への外国人観光客の集客効



▲作成した2種類のパンフレット

果と商店街の売上向上効果が有りました。更に、外国人観光客を商店街に呼び込もうと、高山本町三丁目商店街振興組合は、商店街の免税店の地図を作成し、今年の1月28日に完成しました。

本町三丁目に絞った地図と、三丁目を含む中心部の商店街の地図を2種類作成しました。本町三丁目商店街では、7店舗が免税店に参加しており、1店舗で免税対象額に満たなくても、合算で免税手続きができます。広域の地図は21店舗を掲載。いずれも免税手続きを分かりやすく紹介しています。

特に、免税手続きにパスポートが必要なことを上から目線にならない様に伝えるのに工夫を凝らしています。親しみ易いよう、三丁目商店街マスコットキャラクターの少女がさりげなく呼びかける多言語表示としました。多言語表示については、翻訳ソフトでは不安だったので、観光協会と高山市に協力していただ



▲キャラクター入り看板

きました。

本町三丁目の地図はA4判三つ折り、広域地図はA3判四つ折り。それぞれ1万部作成し、JR高山駅前の観光案内所やホテルに配布しました。

以前は免税を楽しみに買い物をして下さったお客様が、「パスポートをホテルに置いてきた。」と残念がるが多かったので、この免税案内地図を配布してからは、パスポート未携帯の機会損失は100%解消されました。

本町三丁目商店街振興組合の中田理事長にお話を伺ったところ、「本町三丁目は、過去に空き店舗を活用した創業支援などを



▲アーケード支柱の看板

2回行いましたが、大きな成果を上げることができませんでした。2012年にTVアニ

メ「氷菓」の舞台になってから通行量が増えました。アニメキャラクターは商店街発展にとっても役立ちます。ぜひ他の町でもキャラクターを積極的に活用して欲しいです。」と、キャラクター利用について熱く語っていただきました。商店街での免税カウンター設置は、外国人観光客が集まるところでは効果が大きいので、これから観光客を増加させたい商店街にも有効だと感じました。

平成27年度補正商店街・まちなかインバウンド促進支援事業は、本町三丁目商店街振興組合と㈱まちづくり飛騨高山の共同申請で昨年採択され、外国人対応おもてなし拠点施設「グルメ商店街 Eat town (イートタウン) 飛騨高山(仮称)」が屋台村の形式で4月上旬にオープンする予定です。国の大型補助金なので交付申請手続きがあり、経費要件の精査などがありましたが、事務手続きは半ばを過ぎ、出店希望者も集まって順調に事業が進んでいます。運営計画では、「インキュベーション機能を持った店舗を設置する」と記載があるので、同施設での創業者の今後の活躍が期待でき楽しみです。

【参考となるポイント】

- 親しみやすいアニメキャラクターの活用
- 観光資源と補助制度の活用
- インキュベーション機能が今後の発展へ

高山

2/25(土)

忍者のこどもまち探検 商店街を忍者が走り回る！

■主催：まちをあそぶ実行委員会 ■後援：高山市

2月25日(土)に高山市商店街で、子供対象のイベント「忍者のこどもまち探検」が開催され、集まった子供たち35名と大人の運営スタッフや来街者が忍者イベントを楽しみました。

イベントのスタート地点は、コミュニティ施設「まちひとぷら座かんかこかん」の2階の畳広間で、子供達は持参した風呂敷を忍者

頭巾にしてかぶり、忍者に変身していました。運営スタッフの大人忍者の自己紹介の後に、楽しみ要素が盛りだくさんの修行とゲームが2時間半行われました。イベントの司会役は、NPO法人あそび環境museumアフタフ・バーバンの忍者2名。司会役以外の12名の大人忍者も子供達を引率する役割として修行を手伝いました。



▲修行のはじまり、はじまり～。

修行のまえに大人忍者4人によるカラー風呂敷の手裏剣ショーが、大拍手の中で行われました。豊広間での修行は、長剣修行、見る修行、聞く修行、光修行、素早さ修行、変身修行の順に行われました。

長剣修行は、新聞紙で作った3m程の長剣の両端を大人忍者が持って、座っている子供達の頭上を長剣が通ります。子供達は切られないようにうつ伏せになって避ける単純なゲームでしたが、歩くスピードで子供たちの隊列を1往復した後に、スロー進行で長剣修行が行われると、我慢しきれずに頭を上げて切られちゃう子供忍者がいて、場内は拍手が起こって盛り上がりました。

見る修行は、4人の大人忍者の内1人がイナゴを食べ、他の3人はイナゴを食べたふりをして、子供達がイナゴを食べた人を良く見て当てるゲームでした。大人忍者が音を立ててイナゴを食べたふりをしたので、殆んどの子供忍者達は騙されてしまいました。

素早さ修行は、みんなで手を合わせ大人忍



▲素早さの修行

者が手を引いた事を合図に、子供忍者が素早く手を引くというものです。手を引くのが遅れると大人忍者に上から手を叩かれて負けになる単純なゲームでした。子供忍者が気楽に構えていると手を引くのが遅れて負けてしまいます。素早さ修行は適度な勝ち負けがあって楽しい様子でした。

変身修行は、石、木、地蔵、壁、岩の順にそれぞれ20秒間変身する修行をしました。石などの単独変身では大人忍者が石になりきった子供忍者を突っついて回るので、子供忍者は笑いを堪えていました。岩の変身修行では、子供忍者4人程度が集まって肩を組んで顔を伏せて岩になりきります。大人忍者が岩を崩しに回りますが、子供忍者達は崩されないように耐えていました。

変身修行が終わると、まち探検のルール説明があり、子供忍者3～4人と引率の大人忍者1人が10チームに分かれて、まち探検の道場主探しに出発しました。まち探検では、大人忍者の青影と赤影の2人に子供忍者が見つかって捕まってしまうとゲーム終了になってしまいます。子供忍者は修行で身に付けた変身をするか、物陰に隠れて青影と赤影から逃れられるルールになっていました。青影や赤影が遠くにいても隠れるチームがほとんどでしたが、「見つかったら言い訳をする。」という大胆なチームもありました。

まち探検の修行は道場主探しとまちの宝人探しの順に進められました。

道場主探しは簡単な道場の地図が子供忍



▲まち探検に出発だ！

者に渡され、子供忍者が商店街の隠し道場を探します。道場主探しの合言葉が設けられていて、子供忍者が商店街の店主に「今何時ですか？」と尋ねると、道場主は「春慶塗」と答えます。道場主でない場合は合言葉がありません。ゲームを適度に面白くするために道場の地図が詳しく書かれていないので、外れることが多かったです。子供忍者が道場主を発見すると修行の証をくれるので、子供忍者達は大喜びしていました。

道場探しが終わったチームから、くじをもとにまちの中の宝人を探す修行が始まりました。謎解きのヒントは、2枚の紙に「掘る・子供」「飛ぶ・男」「ぐるぐる・大人」「やわらか・女」「赤 ▲壁に変身！



い・子供」「バナナ・女」などと書かれています。答えがはっきり決まっていないので、連想できる答えを考えて当てはまる人を見付け、名前を覚えてもらい本部に報告すると終了です。ヒントの連想が難しいので、大人忍者でも難しく、苦戦するチームが続出しました。

まち探検修行終了後、陣屋前の広場に集合し、最後の修行「旗取り合戦」を子供忍者と大人忍者に分かれて戦いました。まち探検修行が難しかったので、遅れて集まったチームが有りましたが、待ち時間ができたチームは陣屋をバックにイベントの記念撮影をして盛り上がっていました。旗取り合戦は全員が新聞紙を丸めた剣を持ってチャンバラをします。膝下を切られた忍者はその場から動けないルールでした。大人忍者は手加減せずに戦いましたが、人数が3倍の子供忍者の2連勝

でした。

旗取り合戦の後は、かんかこかに戻って、一人ひとりに修行終了の巻物が渡され、ご褒美のみたらし団子をみんなで食べて解散しました。参加した子供たちの感想は、「忍者はかっこよくて楽しい！」「取材のカメラに映ったからTVに出るかもしれない！」とはしゃいでいました。

子供たちが帰った後、すぐに大人忍者の反省会があり、全員が感想を発表しました。感想は「ヒントが難しかった。」「積極的で手当たり次第入店。」「恥ずかしがってなかなか動かない。」「遠くの青影や赤影を見つけても隠れるので修行が捗らなかった。」とチームごとに特徴があり、引率に工夫が必要な様子でしたが、運営スタッフの大人忍者もイベントを楽しめた様子でした。

来街者の外国人観光客や商店街の店員さんは、無邪気に走り回る子供忍者を見掛けると「何のイベントだろう？」「かわいい！」「楽しいそう！」「元気が良くていい！」と言ってイベントを楽しんでいました。主催者のまちをあそぶ実行委員会の方にお話を伺うと、「普段はTVゲームや塾が中心の子供達に、街中を知ってもらい遊んで欲しいです。子供達が商店に入るささやかな1日のこのイベントを、遊びの指導を頂いて続けていきたいと思います。去年は日程が合わなくて実施できませんでしたが、この4年間で3回実施できました。高山市の補助金を活用して、運営スタッフの大人忍者には商店街のメンバーと市役所のスタッフと一般ボランティアに参加して頂けました。」と意気込みとイベントの成果を話して下さいました。

【参考となるポイント】

- 適度な難しさのゲーム
- イベント終了後すぐにまとめ反省会の実施
- 手軽な風呂敷忍者頭巾の仮装

【取材・記事 中小企業診断士 上村真太郎】

平成29年度 岐阜県商店街活性化支援事業費補助金

1. 商店街創生戦略支援事業

補助対象事業

県の創生総合戦略に掲げられた施策の推進に資する、以下の全てを満たす事業。

- 1 複数の商店街が協働して実施するものであること
- 2 複数の商店街が、全国商店街支援センター等のまちづくりの専門家の意見を聞いて策定する商店街創生計画に基づいて実施するものであること

<追加項目>

- ①商店街創生計画(ビジョン)作成支援
- ②インバウンド対策支援

補助対象期間

3年を限度

補助率

補助対象経費の1/2以内

補助額

上限3,000千円

下限500千円

◆市町村補助額以下

2. 商店街ソフト事業支援事業

他市町村からの集客が見込むことができる次に掲げる事業

- 1 中心市街地活性化基本計画に位置付けられた事業
- 2 商店街において1年を通して年4日以上定期的に実施する事業

補助対象期間

5年を限度

補助率

補助対象経費の1/3以内

補助額

上限1,000千円

※1及び2のいずれにも該当する事業に限り上限2,000千円

下限200 or 500千円

※商店街の規模(参加店舗数)により下限額を設定 参加店舗数101以上→500千円 100以下→200千円

2年目以降の事業は前年度の補助額の90%以内

◆市町村補助額以下

3. 若手・女性事業者グループ等支援事業

若手・女性事業者グループ等が主導的に企画・実施するソフト事業(イベント含む)

<実施主体>

県内に活動の拠点を有する若手・女性事業者グループ等

※商店街団体や商工団体の青年部・婦人部、商店街の若手・女性事業者グループ等

◆他の商店街のモデルとなるべき新規事業の創設を重点的に支援

<若手・女性事業者グループ等>

次のいずれかに該当するもの

- 概ね45歳までの者3名以上が事業参加し、かつその割合が過半数以上であること
- 女性3人以上が事業参加し、かつその割合が過半数以上であること

補助対象期間

特に定めず

※新規事業と認められる内容であれば継続可

補助率

補助対象経費の1/3以内

補助額

上限1,000千円

下限200千円

◆市町村補助額以下

詳細につきましては、岐阜県商工労働部商業・金融課までお問い合わせください。

TEL: 058-272-8374

岐阜県子育て支援企業登録制度

岐阜県では、仕事と家庭の両立支援に取り組む企業・団体を「岐阜県子育て支援企業」として登録しています。

※県内に本社又は事業所を有する企業・団体であれば、どなたでもご登録いただくことができます。

登録のメリット

- 企業のイメージアップにつながります。
- 県の中小企業資金融資制度の「子育て支援資金」の利用対象企業となります。
- 県内の金融機関で「金利優遇」が受けられます。（「企業の資金融資」及び「従業員の利用するローン」など。金利優遇メニューは、岐阜県のホームページをご覧ください。）
- 県建設工事の入札参加資格における主観点数が加点されます。
- 「県子育て支援企業シンボルマーク」を使

用してPRができます。

シンボルマークを名刺などに付けることができます。

併せて、登録企業にはシンボルマークの「ステッカー」も配布します。社用車・事務所・店舗などに貼っていただくことができます。

登録方法

登録届出書に必要事項をご記入の上、メール又はFAXにてお申込みください。（様式等については、岐阜県ホームページで取得することができます。）

詳細につきましては、岐阜県健康福祉部子ども・女性局女性の活躍推進課までお問い合わせください。

TEL: 058-272-8236

プレミアムフライデーについて

プレミアムフライデーとは

個人の幸せや楽しさを感じられる体験（買物や家族との外食、観光等）や、そのための時間の創出を促すことで、

- ①充実感・満足感を実感できる生活スタイルの変革への機会になる
 - ②地域などのコミュニティ機能強化や一体感の醸成につながる
 - ③（単なる安売りではなく）デフレ的傾向を変えていくきっかけとなる
- といった効果に繋げていく取組です。

プレミアムフライデー実施方針

(1)実施期間

月末の金曜日を軸に実施

(2)実施主体

買物・観光・ボランティア・家族との時間等、多くの方が「生活の豊かさ」や「幸せ」を感じられるよう、付随する商品・サービス、イベ

ント等を地域・コミュニティ・企業等で検討

(3)対象地域・業種

全国各地で業種にとらわれずに実施

(4)実施期間

金曜日を核とし、金曜日から日曜日の3日間とする等、柔軟に設定

ロゴマーク使用申請

ロゴマークは、申請をいただければご自由にお使いいただけます。商品やイベント、キャンペーンに合わせてご活用いただけるよう様々なバリエーションをご用意しています。

商店街等で申請し、イベント等で使用している事例もございます。

詳しくは、プレミアムフライデーホームページをご覧ください。

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。